

分野	52	水資源
施策	522	水の安定供給
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。

概要				
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課
	低廉な水の安定供給事業	会計 款 項 目	—	水道総務課
		公営企業会計		
事業の概要				
地下水と府営水道の二元水源により安心して安全な水を安定供給するとともに、京都府と受水市町が連携し、効率的な水運用により低廉な水道料金での事業運営に努めます。				

平成29年度の取組							
D (取組)	指標	水道水における府営水ブレンド率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	47.3(平成26年度)	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
		実績	53.9	51.5			
<p>・計画していた東第2浄水場のろ過機電動弁取替工事を実施しました。また、落雷により紫外線処理施設2基の内、1基が故障し、緊急修繕を行いました。しかし、修繕が完了するまで日数を要したため、府営水道の受水量を増加させる水運用に変更しました。</p>							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		—		—	—
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<p>・落雷により紫外線処理施設2基の内、1基が故障し、緊急修繕に日数を要したことや、ろ過機電動弁取替工事により自己水の浄水処理が減った影響で、市民向けの府営水ブレンド率は50%を超え、地下水の供給量が減少しました。</p>	
課題等			<p>・府営水ブレンド率は、取水井戸の停止だけでなく、浄水施設の故障などにも大きく影響することから、原水水質の監視だけでなく、水道施設の耐震化など計画的な施設更新を行う必要があります。また、安心安全な水道水を安定して供給するため、二元水源の確保が必要です。</p>		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>・安心安全な水道水を安定して供給するため、二元水源を確保し、市民向けの府営水ブレンド率50%を維持します。また、安定的かつ効率的な水運用を維持するため、東第2浄水場ろ過機盤取替工事など計画的な施設更新を行います。</p>

分野	52	水資源
施策	522	水の安定供給
5年後の目標	地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要				
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課
	基幹管路の耐震化事業	会計 款 項 目	—	水道施設課
		公営企業会計		
事業の概要				
自然災害や経年劣化による基幹管路の損壊は市民生活への影響も大きく、復旧にも長時間を要します。自然災害等に負けない強靱な水道施設とするため、計画的に更新・耐震化を進めます。				

平成29年度の取組							
D (取組)	指標	上水道基幹管路耐震化率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	31.6(平成26年度)	目標	32.8	34.9	36.4	40.0	※平成31年度策定の中 期経営計画に基づく指 標設定
		実績	32.5	33.0			
・水道事業中期経営計画後期計画（平成27～31年度）に基づき、老朽化した天神3丁目地内配水管及び勝竜寺地内犬川橋に架る送水管取替工事の基幹管路耐震化事業を実施しました。							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・関係機関との調整及び地元住民等の理解を図りつつ、基幹管路の耐震化工事を実施しました。基幹管路の耐震化を実施した結果、その他の老朽管路の更新工事も併せて行ったため、平成29年度の目標耐震化率は、一部未達成となりました。	—
	課題等	・口径300mm以上の配水管は主に幹線道路に埋設しており、その道路敷きには下水・ガス・電気等が埋設しており、それぞれ離隔をとり埋設しています。布設替を行うにあたり一旦仮設配管を行い、既存の管を取り除いた後に新設管の布設を行うことから、多額の費用と期間を要します。			

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	・基幹管路が大量更新期を迎える中で、健全な財政を維持しながら水の安定供給及び災害・危機管理対策の推進を図るため、耐用年数に加え、路線の重要度等を総合的に勘案し、優先順位をつけたうえで更新投資の平準化を図るなど効率的に基幹管路の耐震化を進めます。

分野	52	水資源
施策	522	水の安定供給
5年後の目標	地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要				
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課
	鉛製給水管の取替促進事業	会計 款 項 目	—	水道施設課
		公営企業会計		
事業の概要				
蛇口からの水質保全や漏水防止のため、既存の鉛製給水管の取り替えを順次進めます。				

平成29年度の取組							
D (取組)	指標	鉛製給水管残存率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	14.3(平成26年度)	目標	12.2	10.0	8.0	6.0	※平成31年度策定の中 期経営計画に基づく指 標設定
		実績	12.4	11.7			
	<ul style="list-style-type: none"> 水道事業中期経営計画後期計画（平成27～31年度）に基づき、管路更新工事及び道路整備工事等に併せ、鉛製給水管の取替を行いました。 長岡1～3丁目地区において、74件の給水管取替工事を実施し、鉛製給水管の取替を進めました。 						

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 給水管取替工事、漏水に伴う取替、管路更新工事及び道路整備工事等による鉛製給水管の取替を実施しましたが、事業の進捗により、まとまった更新対象地区が減少しているため、目標の鉛製給水管率には及びませんでした。 	—
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 事業の進捗により、まとまった更新対象地区が減少し、工事箇所が分散され、更新箇所の選定が難しくなっています。 今後も、コスト増も考えられることから、より一層の対象市民の理解を得ながら効率的に工事を進める必要があります。 			

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	2: 進め方の改善の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> 工事箇所が分散され、コスト増も考えられることから、より一層のコスト意識を持ち、効率的に工事を進めます。 管路更新事業で後年時に布設替が予定されている管路も鉛製給水管取替事業の対象路線とし、広報紙等による啓発活動により、対象市民及び近隣住民の理解と協力を得ながら取替を進めます。

分野	52	水資源
施策	522	水の安定供給
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	多様な形態の広域化の検討事業	会計	款	—	水道総務課
		項目			
公営企業会計					
事業の概要					
水需要の減少により水道料金収入は減少する一方、老朽施設の更新や耐震化など事業費用は増加する見込みとなっています。市水道事業単独での効率化にも限界があり、水道事業を継続して安定経営するため、水道施設の共同使用や経営の統合など広域化を検討します。					

平成29年度の取組							
D (取組)	指標	新たに策定する上下水道ビジョン(平成32～41年)に多様な広域化の方向性を反映				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	乙訓上水道事業連絡協議会で多様な広域化について検討(平成26年度)	目標	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	新たに策定する上下水道ビジョンに多様な広域化の方向性を反映	—
		実績	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討			
<p>・京都府の府営水道ビジョン(改訂版)や京都水道ランドデザイン策定に向けた各種会議に参加し、広域的な連携について検討を進めました。また、水道の普及とその健全な発達を図る為に設立された日本水道協会の京都府支部においても、合同での防災訓練や緊急資材管理状況の情報共有など連携を進めました。</p>							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成29年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・京都府の府営水道ビジョン(改訂版)に向けた各種会議に参加し、広域的な連携について検討を進め、受水市町の意向などを府営水道ビジョン(改訂版)に反映出来ました。また、日本水道協会京都府支部においても、緊急資材管理状況の情報共有など連携を進めるとともに、合同での防災訓練を実施し、災害時の対応などを確認しました。
課題等	・水道事業全てを広域化するには課題も多く、一度に検討を進めることは困難です。そのため、広域化に向け、営業業務などの一部事業の広域連携など、多様な形態の広域連携を検討する必要があります。			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <p>・次期上下水道ビジョン(平成32～41年度)で広域化の方向性を示すため、引き続き京都府や京都市を中心として、各市町との緊急資機材の共同管理など検討を進めていきます。また、市としての広域化の方向性の検討にあたっては、前年度に引き続き上下水道事業審議会に諮り進めていきます。</p> <p>・府営水道の乙訓系受水市町であります向日市や大山崎町とは、乙訓上水道事業連絡協議会において各種検討を行い連携を図ります。</p>